

地域とともに141年

写真でみる  
横浜銀行の歩み







1



2



3



4

## ごあいさつ

平成 22 (2010) 年 12 月 16 日、横浜銀行は、大正 9 (1920) 年に横浜興信銀行として設立されてから、おかげさまで 90 周年を迎えました。これはひとえに、お客さま、株主の皆さま、地域の皆さまの長年にわたるご愛顧の賜物であり、心から感謝申し上げます。

創立 90 周年にあたり、当行の歴史を写真を中心に紹介する小冊子を刊行することとしました。

大正 9 (1920) 年、破綻した銀行の預金者救済、地域経済安定のため、地元財界の総意にもとづいて、横浜興信銀行が設立されました。その後、県内各地にすでに誕生していた 31 行もの銀行を受け継いで、県内唯一の地方銀行となります。昭和 32 (1957) 年に、横浜興信銀行は横浜銀行へと行名を変更します。

受け継いだ銀行のひとつである第二銀行のルーツをさかのぼると、明治 2 (1869) 年設立の横浜為替会社にまで行き

着きます。ここを起点とすると、当行は、141 年もの歴史を持つ「日本で最も歴史の長い銀行」となります。

戦後、当行は、神奈川県・東京西南部を経営地盤として、地域に支えられ、地域とともに歩んできましたが、オイルショックを契機とする低成長時代への移行、バブルの崩壊、不良債権問題など、数々の試練にも直面しました。幾多の困難を乗り越えることができましたのは、何よりも当行と地域のお客さまなどとの間に、密接なりレーションシップの上に成り立つ信頼関係があったからだと考えています。当行では、引き続き全役職員が一丸となって、地域のさらなる発展に全力を尽くしてまいります。

今後とも、変わらぬご支援を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

平成 23 年 5 月

頭取 **小川 是**

## 目次

1869 横浜為替会社の設立  
～日本で最初の近代的金融機関 — 4

1869～1921 現在の横浜銀行を  
形づくった前身銀行の誕生 — 6

1920 横浜興信銀行の設立  
～破綻した銀行の預金者救済を使命として — 8

1945～ 神奈川県・東京西南部を経営地盤として  
～地域に支えられ、地域とともに発展する — 10

1960 ▶ 2010 店舗いま、むかし — 12

関内駅～馬車道駅  
当行の遺構をたどる小さな旅へ — 14

1993～ イメージキャラクター・水野真紀さんの  
ポスターでみる商品の変遷 — 15

この小冊子「地域とともに 141 年 写真でみる 横浜銀行の歩み」は、写真を中心に当行の歴史を簡単に紹介しています。当行の歴史については、別途制作した創立 90 周年記念誌「地域とともに 141 年 横浜銀行の歩み」で、より詳しく紹介していますので、あわせて参照ください。

創立 90 周年記念誌「地域とともに 141 年 横浜銀行の歩み」は、当行ホームページ (<http://www.boy.co.jp/>) でご覧いただけます。



5



6



7

写真は、大正 9 (1920) 年の設立から現在までの当行本店の遷移

- ① 大正 9 (1920) 年 横浜興信銀行開業時本店  
南仲通二丁目 20 番地 (横浜商工会議所蔵)  
明治 38 (1905) 年、横浜七十四銀行本店として建築され、大正 7 (1918) 年、七十四銀行本店となる。大正 9 (1920) 年 5 月から休業し、同年 12 月横浜興信銀行が設立され、初代本店となる。
- ② 大正 12 (1923) 年 関東大震災で焼失した本店  
南仲通二丁目 20 番地  
設立 3 年後、関東大震災に襲われる。横浜興信銀行は、当時の本支店 9 か店のうち、横浜市内全 6 か店と東京支店を焼失。残ったのは高崎支店と川崎支店のみであった。
- ③ 大正 12 (1923) 年 バラックで営業する本店  
弁天通四丁目 53 番地  
急造のバラックで営業再開。ここでの営業は昭和 4 (1929) 年まで続いた。
- ④ 昭和 4 (1929) 年 仮設の本店 弁天通二丁目 35 番地  
旧横浜取引所の建物を改築して、仮設の本店として移転。バラックからは前進したが、昭和 13 (1938) 年まで、仮設店舗での営業が続いた。
- ⑤ 昭和 13 (1938) 年 住吉町時代の本店  
住吉町四丁目 42 番地  
関東大震災から 15 年、ようやく本店ビルが完成・移転する。昭和 35 (1960) 年まで使用。その後、一時、横浜市中区役所となり、現在は、隣地にあった横浜宝塚劇場とともに横浜市民文化会館 (関内ホール) となっている。
- ⑥ 昭和 35 年 (1960) 年 本町時代の本店  
本町五丁目 47 番地  
現在の本町通りとみどり大通りの交差点付近、および馬車道駅に当たる場所にあった。
- ⑦ 平成 5 (1993) 年 現本店 みなとみらい三丁目 1 番 1 号

表紙写真 (横浜商工会議所蔵)  
上 横浜為替会社 (のちの第二国立銀行、第二銀行)  
下 横浜興信銀行初代本店



# 1869 明治2年

## 横浜為替会社の設立

～日本で最初の近代的金融機関

明治2(1869)年、全国8都市に為替会社が設立された。「為替会社」はBankの訳語であり、預金、貸出、為替、両替などの金融業務を営んだほか、紙幣を発行した。日本で最初に会社組織をとった近代的金融機関であった。

開港間もない横浜に誕生した横浜為替会社は、唯一、貿易に必要な洋銀券(ドル紙幣)を発行した。また、横浜為替会社は、横浜商人たちの旺盛な資金需要に応じ、貸出も増大させていった。

明治5(1872)年、国立銀行条例が公布され、全国で国立銀行の設立が始まる。

横浜以外の為替会社7社は数年で解散したが、横浜に必要な存在となっていた横浜為替会社は、横浜商人からの請願により、明治7(1874)年、解散することなく、第二国立銀行に組織変更する。第二国立銀行は、第二銀行を経て昭和3(1928)年、横浜興信銀行と合同する。第二銀行を受け継いだ当行は、「わが国最初の近代的金融機関である為替会社を祖先に持つ唯一の銀行」であり、わが国に最初の国立銀行が誕生するよりも前の明治2(1869)年から141年の歴史を持つ、「日本で最も歴史の長い銀行」となる。

横浜からの最大の輸出品・生糸の産地である群馬県と横浜商人との結びつきは深かった。当行の高崎支店・前橋支店は、第二国立銀行が創設早々に開設した、高崎支店(明治8(1875)年開店)・前橋支店(明治9(1876)年開店)を受け継いでいる。



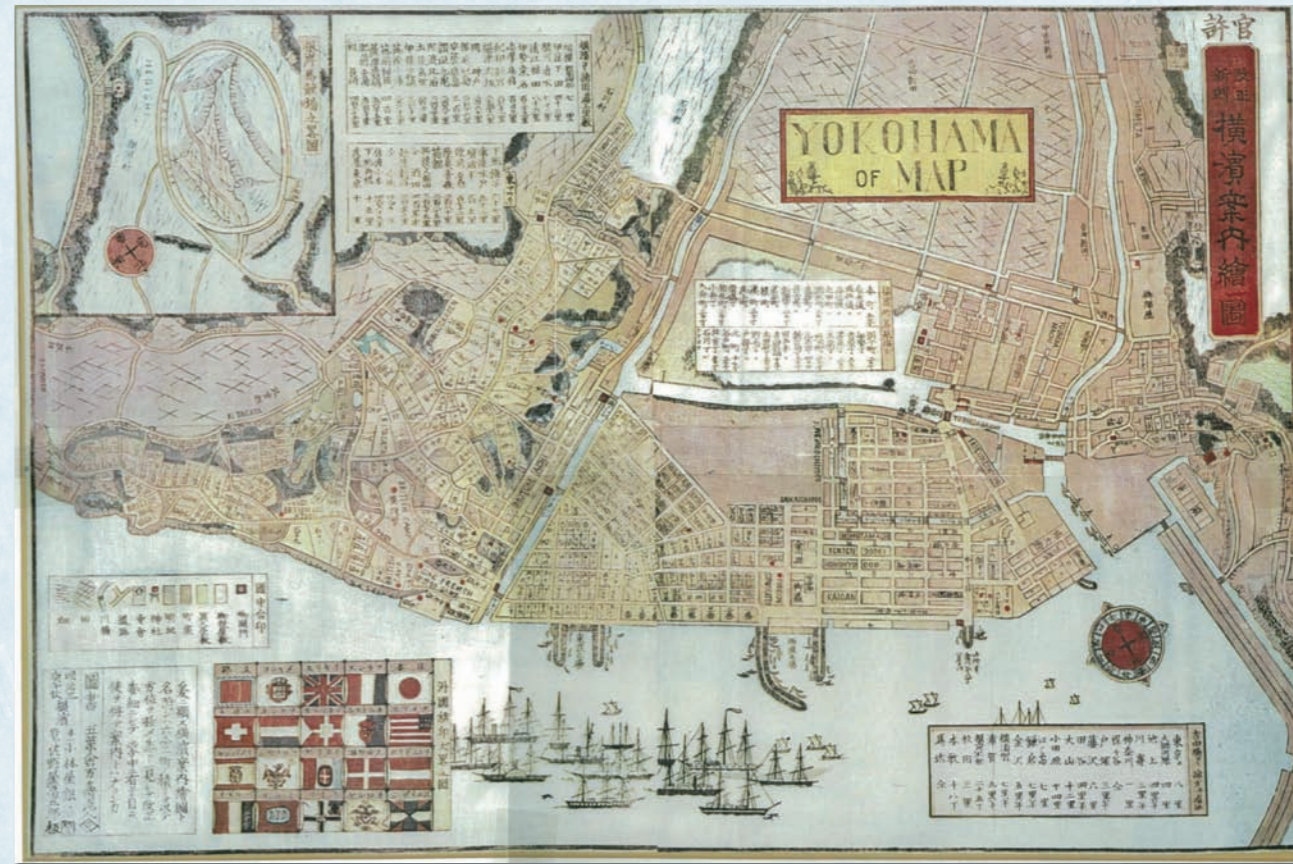
横浜為替会社(のちの第二国立銀行、第二銀行)  
本町三丁目33番地(横浜商工会議所所蔵)

明治2(1869)年開業の横浜為替会社の建物。明治3(1870)年の火災により焼失し、翌4(1871)年に再築された。明治初期の「和洋折衷建築」の代表作のひとつ。第二国立銀行、第二銀行を経て、昭和3(1928)年、横浜興信銀行と合同した。写真は、明治38(1905)年、第二銀行時代のもの。関東大震災で焼失。



横浜為替会社 洋銀券10円  
(日本銀行貨幣博物館所蔵) 明治5(1872)年

わが国で洋銀券(ドル紙幣)を発行したのは、横浜為替会社とこれを改組した第二国立銀行のみであった。表面に、横浜為替会社の英文名称「The Yokohama Bank」の表記がある。また、裏面上部には「改第式国立銀行」という赤いスタンプがある。これは、明治5(1872)年に横浜為替会社が発行したこの洋銀券が、第二国立銀行に組織変更後も、第二国立銀行発行のものと読み替えて流通していたことを示している。横浜為替会社・第二国立銀行の発行した洋銀券は、開港間もない横浜での対外貿易において、日本の商人の権利を守るために重要な役割を果たした。



官許改正新刻横浜案内絵図  
明治3(1870)年

本町通りを中心とする関内地区の街路は現在とほとんど変わらないが、現在のJR根岸線の南西(陸)側は、まだ埋立が進まず、入江となっていた。この時すでに根岸に競馬場が設けられていた(左上)。

出資額	氏名	職業
20,000 両	三井八郎右衛門	生糸・呉服・両替
6,000 両	渡辺福三郎	生糸・石炭・海産
〃	西村七右衛門	生糸・陶器・材木
〃	三浦勘助	生糸売込
〃	中沢五兵衛	漆器売込
〃	堀越源七	洋品引取
〃	茂木惣兵衛	生糸売込
〃	原善三郎	生糸売込
〃	吉田幸兵衛	生糸売込
5,200 両	中条基之助	洋品引取
〃	上原四郎左衛門	生糸売込
〃	岡本伝右衛門	生糸売込
〃	榎本六助	呉服
〃	杉村基三郎	生糸売込
〃	増田嘉兵衛	生糸売込
〃	岸田長兵衛	生糸売込
3,725 両	石川徳右衛門他	
3,275 両	田中平八他	
(総計 200,000 両・52 名)		

資料出所「日本金融史資料」

### 横浜為替会社設立の碑

平成22(2010)年12月16日、当行創立90周年記念日に、横浜為替会社設立地に記念碑を建立し、財団法人横浜観光コンベンション・ビューロー様に寄贈した。



### 横浜為替会社 主要株主 明治2(1869)年

株主構成をみると、特権商人といわれる三井の持株比率は10%と低く、残りの大部分を原善三郎・茂木惣兵衛をはじめとする横浜商人が占めた。また、総員52名の株主中、生糸売込商が半数の26名に達していた。これに比べると、他の為替会社では、特権商人の持株比率が40～60%と高かった。横浜為替会社の総頭取は三井八郎右衛門であったが、実際の経営は原・茂木など地元商人が執行した。横浜商人にとって横浜為替会社は、まさに「横浜商人の、横浜商人のための「銀行」」であった。



# 1869~1921

明治2~大正10年

## 現在の横浜銀行を形づくった前身銀行の誕生

当行は、明治2(1869)年から大正10(1921)年までに現在の神奈川県(および東京都町田市)に誕生した31行の銀行を受け継いで、昭和20(1945)年に神奈川県唯一の地方銀行となった。

地図上に31行すべての設立年と設立当初の名称をプロットしている。

- 大正9(1920)年から昭和3(1928)年までに整理受託・合同した横浜市内の銀行9行
- 昭和7(1932)年に合併した関東興信銀行の前身銀行(計5行)
- 昭和16(1941)年に受け継いだ鎌倉・明和・平塚江陽・相模・秦野・足柄農商の6行およびその前身の銀行(計16行)  
⇒ 神奈川県唯一の普通銀行となる
- 昭和20(1945)年に受け継いだ都南貯蓄銀行  
⇒ 神奈川県唯一の地方銀行となる

(建物写真が「カラー」のものは現存している)



相模銀行本店



伊勢原銀行本店



瀬谷銀行の門



戸塚銀行チラシ(横浜市中心図書館所蔵)



左右田銀行本店(横浜商工会議所所蔵)



都南ビル(旧都南貯蓄銀行本店)



中央労働金庫小田原支店(旧明和銀行本店)  
小田原銀行(積小社が改組)、小田原通商銀行、国府津銀行、曾我銀行の4行の合同により誕生した小田原実業銀行が休業に至り、新設の明和銀行が整理を受託した。当地は当初、小田原通商銀行本店であった。

**山北**  
1896 積産株式会社

**南足柄**  
1900 足柄農商銀行

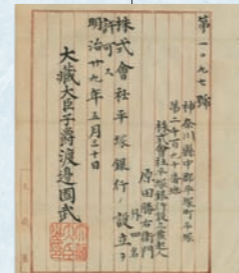
**下曾我**  
1901 曾我銀行

**国府津**  
1900 国府津銀行

**小田原**  
1875 積小社  
1897 小田原通商銀行

**大井町(旧金田村)**  
1898 金田興業銀行

**平塚**  
1882 江陽銀行  
1896 平塚銀行



平塚銀行設立許可証



江陽銀行本店(平塚市博物館 市史編さん担当提供)

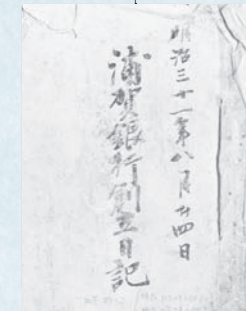
**藤沢**  
1882 藤沢銀行  
1896 藤沢貯蓄銀行  
1899 相模共栄銀行

**鎌倉**  
1897 鎌倉銀行



鎌倉銀行本店

**浦賀**  
1899 浦賀銀行



浦賀銀行創立日記

**町田**  
1896 町田銀行

**瀬谷**  
1907 瀬谷銀行

**厚木**  
1890 厚木会社

**戸塚**  
1899 戸塚銀行

**伊勢原**  
1896 伊勢原銀行

**秦野**  
1892 相模銀行  
1892 秦野銀行

**横浜(すべて現在の中区)**  
1869 横浜為替会社  
1878 第七十四国立銀行  
1882 横浜貯蓄銀行  
1895 茂木銀行  
1895 左右田銀行  
1896 横浜貿易銀行  
1896 武蔵商業銀行  
1899 左右田貯蓄銀行  
1900 元町貯蓄銀行  
1921 都南貯蓄銀行



# 1920

大正9年

## 横浜興信銀行の設立

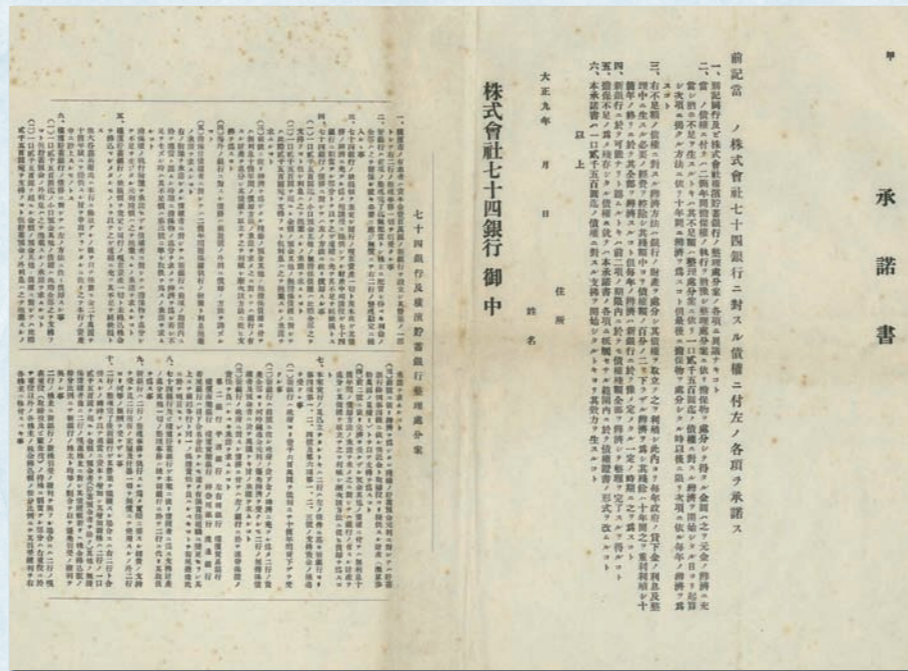
～破綻した銀行の預金者救済を使命として

### 5月 金融危機の発生

大正9(1920)年5月、横浜最大の普通銀行が破綻する。

預金者救済、地域経済安定のため、地元財界が立ち上がった。小口預金者の保護に重点を置いた整理案を作成し、政府と折衝して、新銀行を設立するとともに破綻銀行の整理を受託する。こうして誕生したのが横浜興信銀行(のちに行名変更し横浜銀行となる)である。

整理案成立のためには、5万5,000口の預金者全員から、権利の一部放棄について承諾を得る必要があったが、預金者有志・破綻銀行の行員が中心になり、この難事業を成し遂げる。



### 承諾書

大正9(1920)年8月に示された整理処分案(左側に記載)についての承諾書。預金者有志が中心となり、5万5,000口の預金者全員から受理した。

### 七十四銀行・横浜貯蓄銀行の休業通知と休業延期通知(横浜市史資料室所蔵)

大正9(1920)年5月24日に3週間の休業を発表。その後12月25日に横浜興信銀行が開業するまで、休業の延期が13回繰り返された。



### 茂木銀行高崎支店(七十四銀行高崎支店を経て横浜興信銀行高崎支店)高崎市九蔵町20番地

明治11(1878)年に横浜に設立された第七十四国立銀行は、明治17(1884)年、生糸交易の拠点、高崎に支店を開設した。同店は、茂木銀行高崎支店、七十四銀行高崎支店を経て、大正9(1920)年に破綻・休業後、横浜興信銀行高崎支店となった。昭和3(1928)年には、明治8(1875)年に第二国立銀行高崎支店として開店した第二銀行高崎支店の業務を継承。この建物は、横浜銀行に行名変更後の昭和33(1958)年まで使用された。

### 12月 特別な使命を負って

大正9(1920)年12月、横浜興信銀行は、政府・日本銀行による特別融資1,600万円を背負って開業し、しかも、この特別融資について、横浜に本店を置く銀行7行の連帯保証を受けた。設立時の最初の定款(原始定款)には、役員は常勤を除いて「無報酬」、株式は「無配当」である旨が明記されている。きわめて公共性の高い、特別な使命を負った銀行の設立であった。

開業から3年後の関東大震災により、取引先・銀行とも壊滅的な打撃を受けるとともに、昭和初期の金融恐慌の影響も大きかった。当初10年間の整理完了を見込んでいたが、預金支払いを終えるまでに20年、政府・日本銀行からの借入の完済には30年、という長い期間が必要となった。



### 横浜興信銀行設立の碑

平成22(2010)年12月16日、当行創立90周年記念日に、横浜興信銀行設立地に記念碑を建立した。

大正9年12月25日付けの日本銀行からの1,600万円の借入契約書  
横浜に本店を置く普通銀行7行の連帯保証を受けた。





# 1945～ 昭和20年～

## 神奈川県・東京西南部を経営地盤として

～地域に支えられ、地域とともに発展する

昭和20(1945)年、横浜興信銀行は都南貯蓄銀行の営業譲渡を受け、神奈川県唯一の地方銀行となって、終戦を迎えた。

戦後の神奈川県経済の復興は、連合軍主力部隊の進駐による大規模な接収が最大のネックとなって困難をきわめたが、行名を「横浜銀行」と改めた昭和32(1957)年頃からは、経営地盤である神奈川県・東京西南部の発展にともなって順調に業容を拡大し、昭和44(1969)年には地方銀行トップの預金量になった。

取引先数、事務量の急増に対応して、総合オンラインが全店で完成したのは昭和48(1973)年のこと。手作業主体であった銀行業務が大きく変わり始める。

昭和20(1945)年に66か店だった有人店舗は、中国で事業展開するお取引先への金融サービス提供のため、平成21(2009)年に開設した上海支店を含めて、現在、205か店・3海外駐在員事務所(ニューヨーク・ロンドン・香港)に達する。西区みなとみらいに現在の本店が竣工したのは、平成5(1993)年のことであった。



終戦直後の関内大通り・伊勢佐木町・馬車道  
(横浜市史資料室所蔵)

昭和20(1945)年8月30日、占領軍進駐初日に撮影された写真。本店(住吉町)、伊勢佐木町支店、都南ビル(旧都南貯蓄銀行本店)は焼けずに残った。  
①本店(住吉町) ②伊勢佐木町支店 ③都南ビル



横浜港隣接地帯接収現況図

昭和29(1954)年(横浜市中央図書館所蔵)

神奈川県は連合軍主力部隊の進駐により大規模な接収を受けた。なかでも横浜市では、昭和21(1946)年当時の市街地面積の27%に相当する土地が接収され、しかもそのうちの43%は中区に集中した。横浜経済の生命線ともいべき港も、その施設の90%が接収された。



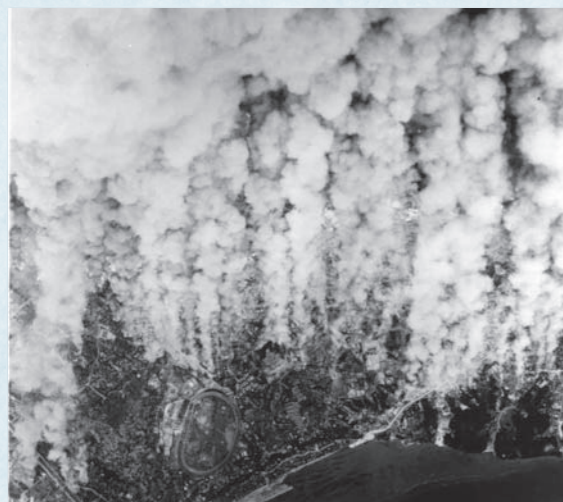
接収された野澤屋・松屋と営業を続ける伊勢佐木町支店  
昭和23(1948)年(横浜市史資料室所蔵)

手前が野澤屋(のちの横浜松坂屋)、「YOKOHAMA PX」の看板があるのが松屋である。松屋の先の2つの尖塔がある建物が当行伊勢佐木町支店。



総合オンラインシステム開通式  
昭和46(1971)年

総合オンラインは、昭和46(1971)年、4か店で稼働開始。以降、順次転換を進め、昭和48(1973)年1月、全店がオンライン転換を完了した。



煙に包まれた本牧・根岸(横浜市史資料室所蔵)

昭和20(1945)年5月29日 横浜大空襲。  
楕円形に見えているのが根岸競馬場跡。



平成3(1991)年11月25日  
みなとみらい地区(横浜市史資料室所蔵)

ランドマークタワーの建築が進む。当行本店はようやく地上部の工事が始まった段階。



平成4(1992)年  
建設中の本店



平成7(1995)年10月23日  
みなとみらい地区(横浜市史資料室所蔵)

本店移転から2年。クイーンズタワー建築中、日石横浜ビルの工事が始まっている。まだ、本町通りとみなとみらい大通は直接つながっていない。



平成21(2009)年  
上海支店が入居する  
上海環球金融中心(SWFC)  
(左側の高層ビル)



1960▶2010

# 店舗いま、むかし

昭和 35 (1960) 年、横浜興信銀行から横浜銀行に行名変更して3年、この年、創立 40 周年を迎え、「横浜銀行四十年史」編さんのため、当時の全 83 か店を撮影した。このうち31 か店は、50 年経った今も、建替えを経て当時と同じ場所で営業している。50 年前の店舗写真と、同じアングルから撮影した現在の店舗の写真を、並べてみた。



杉田支店は平成 15 (2003) 年に再開発ビルが完成したため、面影がまったくないが、同じ聖天橋交差点から撮影したもの。昭和 35 (1960) 年当時は、横浜市内では市電が市民の重要な足であり、市電通り沿いに商店街が形成され、当行支店も市電通りに面していた。以上 3 か店すべての写真に市電の線路が写っている。この時点では、根岸線の桜木町-磯子間もまだ開業していない。



まだ周囲にも高い建物がなかった昭和 35 (1960) 年当時の横浜駅前支店と、昭和 43 (1968) 年に改築した現在の支店。



平成 21 (2009) 年 11 月に新築した元町支店。50 年前も現在も、元町商店街に店舗を構える銀行は当行のみ。



現在の東京支店ビルは昭和 38 (1963) 年竣工。支店前の昭和通りは、50 年前も交通量が多かった。

昭和 35 (1960) 年当時、横浜市民の足であった市電は、昭和 47 (1972) 年 3 月に全廃となり、同年 12 月、横浜市営地下鉄が開業した。



横浜市高速鉄道(横浜市営地下鉄)起工祝賀パレード  
昭和43(1968)年  
(横浜市史資料室所蔵)

伊勢佐木町支店前をパレードが進む。横浜市営地下鉄は、ベイブリッジ、みなとみらい、港北ニュータウンなどとともに横浜市の「六大事業」のひとつとして着工された。



横浜市電最後の日  
昭和47(1972)年3月31日 (撮影者:二村高史)  
本店(本町五丁目)前の本町通り。この日は横浜市電の最後の日であった。車が増え、市電が窮屈そうにしている。



# 関内駅～馬車道駅

当行の遺構をたどる小さな旅へ

関内駅から馬車道駅まで、距離にして約1km。  
明治～大正～昭和に思いをはせながら、  
当行の遺構をたどる小さな旅をご提案。

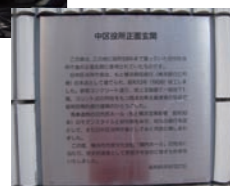
- 1 関内ホール(横浜市市民文化会館)**  
昭和 13 (1938)～35 (1960) 年の本店所在地。  
関内大通り側に現在も当時の扉が残る。
- 2 横浜興信銀行設立の碑(P.9参照)**
- 3 横浜為替会社設立の碑(P.5参照)**
- 4 馬車道駅**  
昭和 35 (1960)～平成 5 (1993) 年の本店所在地。  
構内コンコースに本店(本町)の壁画(彫刻)、金庫扉・貸金庫が残る。
- 5 横浜アイランドタワー低層部**  
昭和 4 (1929) 年に第一銀行横浜支店として建築され、  
昭和 55 (1980)～平成 5 (1993) 年は当行本店別館。  
曳家(ひきや)工法によりバルコニー部分が移設された。



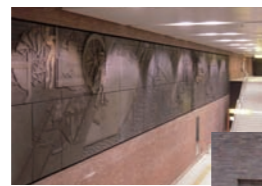
1 本店(住吉町、昭和 13 (1938) 年竣工、昭和 35 (1960) 年撮影)



1 関内ホール



1 関内ホール扉の説明文



4 馬車道駅  
本店(本町)の壁画(彫刻)  
(昭和35(1960)年制作)



4 馬車道駅  
本店(本町)の金庫扉・貸金庫



5 横浜アイランドタワー低層部

# 1993～ イメージキャラクター・水野真紀さんの ポスターでみる商品の変遷



女優・水野真紀さんには、平成 5 (1993) 年 4 月から当行のイメージキャラクターを務めていただいている。この年 9 月の本店移転を控え、4 月に改訂した新しい女子事務服を着用した水野真紀さん。



平成 8 (1996) 年の「年金プレゼント」



平成 14 (2002) 年から「個人年金保険」の取扱いを開始



平成 3 (1991) 年に取扱いを開始した「スーパー定期」と、平成 4 (1992) 年に取扱いを開始した「貯蓄預金」



平成 10 (1998) 年から「テレフォンバンキング」の取扱いを開始



コンサルティング型営業の強化  
適宜、新商品導入・商品の見直しをおこない、  
お客さまの幅広い資産運用ニーズにお応えしている。



平成 5 (1993) 年新社会人向けのポスター



平成 13 (2001) 年から「マイダイレクト」の取扱いを開始  
「マイダイレクト」は、テレフォンバンキング、インターネットバンキング、モバイルバンキングの機能を充実させ、それぞれの契約を統合した新サービス。



平成 6 (1994) 年から「新築家づくりローン(変動金利型)」の取扱いを開始



平成 13 (2001) 年、当行初の専用ファンドとなる投資信託の販売を開始  
投資信託の窓口販売は、平成 10 (1998) 年から開始した。



平成 22 (2010) 年 12 月 16 日、横浜銀行創立 90 周年記念日。新たに建立した横浜為替会社・横浜興信銀行の設立の碑の除幕のうち、本店に来行された時の水野真紀さん。





地域とともに141年  
**写真でみる 横浜銀行の歩み**

平成23年5月発行

発行 **横浜銀行 経営企画部広報 CSR 室**

〒220-8611 横浜市西区みなとみらい3-1-1

TEL (045) 225-1111 (代表)

インターネットホームページ <http://www.boy.co.jp>